

菊花

白居易

一夜新霜瓦上著，
轻芭蕉新折，
败荷倾。

寒耐唯东篱菊，
有金粟花，
开到晓更清。

【作者】白居易（七七二〜八四六年）中唐の大詩人。字は樂天（らくてん）、名は居易、号は香山居士（こうざんこじ）、陝西省謂

南（せんせいしやういなん）の人、太原（たいげん）の人（山西省）ともいう。家は代々官吏、早くから詩を作り、十六歳「春草の詩」、十七歳「王昭君」の作あり。貞元十六年（八〇〇年）進士、元しん（げんしん）と親交あり、江西省九江の司馬に左遷された事もあるが、ほぼ中央の官にあり。刑部尚書（ぎやうぶしよしよ）にて没す、年七五。「長恨歌（ちやうこんか）」、「琵琶行（びわこう）」の大作あり。「白氏長慶集（はくしちやうけいしゆう）」、「白氏文集（はくしもんじゆう）」等我が国にも伝わり、平安文学に感化影響を与えた。

【語釈】*新霜…初霜 *著瓦輕…うつすらと瓦に付いている *芭蕉…バショウ科の大形の多年生草木

*敗荷…荷ははず 枯れてやぶれたはすの葉 *金粟…ここでは菊のことをいう

【通釈】一夜明けると今年初めての霜がうつすらと降りて瓦を白くしている。この寒さに、芭蕉は新たに折れ、破れた蓮の葉も傾いてしまった。そうした寒さに耐え毅然（きぜん）としているのは、ただ東籬の菊だけで美しく開いたその菊の花は暁の風景をいっそう清らかにしている。